

属人区長のメッセージ（2021年2月20日）

四旬節の始まりにあたり、オカリス神父は、断食と清貧の道をたどり、キリストとの一致を目指すよう呼びかけます。

2021/02/20

愛する皆さんへ。イエスが私の子どもたちをお守りくださいますように！

イエスが砂漠で過ごされた40日間を思い出す、聖週間の準備である四旬節が始まりました。ご自身の断食と誘惑の体験を通して、神だけで足りることを主は示しています。四旬節における断食、施し、祈りの実践によって、私たちは主の示されたその現実を再び生きることができるでしょう。

断食を通して、私たちは清貧という道をとおってキリストと同化することを追求します。「放棄する体験としての断食は、純粋な気持ちでそれを行う人が、神の恵みにあらためて気づけるようにし、さらには、自分たちは神に似せてかたどられた被造物であり、神において充足を見いだすということを理解できるようになります」（教皇フランシスコ、2021年四旬節教皇メッセージ）。

周知のように、清貧の徳の美しさは、創造された善をしりぞけること

にあるのではなく、それらの善が神のご計画に入らないときには人が経験する無秩序をしりぞけることがあります。清貧は、被造物や物的なものの本来の善さを示し想起させます。また、清貧は、被造物からの離脱とは、「心が創造されたものには満足せず、創造主を熱望していることの表れ (Conversaciones, n. 110) であることを、明確にするのです。

神から託された使命を遂行する上で、使用している物的なものがどのように役立っているかを明らかにし自己の心を糾明するために、この四旬節は絶好の機会といえるでしょう。そうすれば、役立っていないものをより簡単に手放すことができ、「枕する所」 (ルカ9,58) も持たなかつた主のように、軽やかに歩むことができるようになるでしょう。清貧によって、私たちは、神との一致と他者への奉仕の道としての価値を見出す限りにおいて、この世の事物

を評価することを学ぶでしょう。そして、その道に相応しくないものを、まさに今日、そして今、喜んで捨て去ることができるでしょう。

心からの愛情を込めて皆さんを祝福します。

あなたがたのパドレ

フェルナンド

ローマ、2021年2月20日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/messiji-zokujinkuchoul-2021-2-20/>
(2026/02/01)